

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

## 事業名 **新**花と緑の振興センター準備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111 (内 2866)

E-mail：[c11423@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11423@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 12,687千円 (前年度予算額： 0千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	12,687	0	0	0	0	0	0	0	12,687
決定額	10,900	3,300	0	0	0	0	0	0	7,600

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- 令和元年度に国際園芸アカデミー有識者会議を設置し、令和2年9月までに計5回にわたりアカデミーの目指すべき姿について検討してきた。
- 検討の中でアカデミーの「学校の魅力発信 (入口対策)」、「就職・就農支援の強化 (出口対策)」の取り組みを推進するには、産学官が連携して花き産業界を活性化することが必要とされたため、花き産業の課題に対して機動的に対応できる機関である「花と緑の振興センター (仮称)」を県に設置する方向となった。
- 「花と緑の振興センター (仮称)」は、花き業界が企業、メディア、研究・教育、金融機関、造園、JA、行政など幅広い分野のメンバーと連携事業を行う「花と緑の振興コンソーシアム (仮称)」と花き産業の発展を支える中核的な担い手を育成するため、生産技術の向上と経営管理能力向上のための担い手育成支援施設の運營業務を行う機関とする予定。
- 令和3年度は、「花と緑の振興センター (仮称)」の設置準備を行うとともに、花きの担い手育成支援施設の設置に向けた準備を行う。併せて「花と緑の振興コンソーシアム (仮称)」を先行して立ち上げ、振興企画コンペの開催や情報発信の連携事業に着手する他、花飾りを推進し新型コロナで落ち込んだ需要の拡大を図る。

## (2) 事業内容

ア. 「花と緑の振興センター（仮称）」の設置準備

【6,755千円うち地方創生交付金2,541千円】

- ・花き産業の課題に機動的に対応できる機関である「花と緑の振興センター（仮称）」の設置に向けた検討
- ・花き業界が企業、メディア、研究・教育、金融機関、造園、JA、行政など幅広い分野のメンバーと連携事業を行う「花と緑の振興コンソーシアム（仮称）」の設置
- ・花き産業の発展を支える中核的な担い手を育成するため、生産技術の向上と経営管理能力向上のための担い手育成支援施設の整備及び研修内容（カリキュラム等）に関する調査・検討

イ. 「花と緑の振興コンソーシアム（仮称）」との花き振興連携活動

【3,532千円うち地方創生交付金1,500千円】

- ・花き振興企画コンペの開催
- ・SNS等を活用した県産花き情報の発信

ウ. 県産花き花飾りの推進 【2,400千円（コロナ臨時交付金）】

- ・新型コロナにより減少した需要の拡大に向け、花のある暮らしを身近に提案するため県産花きを活用した花飾りを実施

## (3) 県負担・補助率の考え方

「花と緑の振興センター（仮称）」は、県の花き業界全体の活性化を図るとともに、国際園芸アカデミーの出口入口対策に資するために設置する機関であることから、県の負担が妥当である。

## (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	506	講師・専門家報酬
旅費	933	費用弁償、業務旅費
需用費	2,678	事務消耗品、花材費
役務費	88	通信運搬費等
使用料	400	会議室使用料等
委託費	8,082	担い手育成支援施設整備・研修内容調査業務 企画コンペ開催、SNS等の情報発信
合計	12,687	

### 決定額の考え方

- ・ 所要額を精査し計上します。
- ・ 財源については、地方創生推進交付金を充当します。また、一般財源のうち2,400千円については県有施設整備・新型コロナウイルス感染症対策基金を充当します。

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・ ぎふ農業・農村基本計画
- ・ 清流の国ぎふ花き振興計画

### (2) 後年度の財政負担

花と緑の振興センター（仮称）の運営経費に関して、県が継続して財政負担する。

# 事業評価調書

■ 新規要求事業  
□ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
花と緑の振興コンソーシアム（仮称）を活用した積極的な連携事業を行うことにより、花きの需要拡大や花き生産の担い手育成を図り、県花き産業の活性化に寄与する。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
連携事業数	0事例 (R1)	—	—	0事例 (R2)	20事例 (R7)	—

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

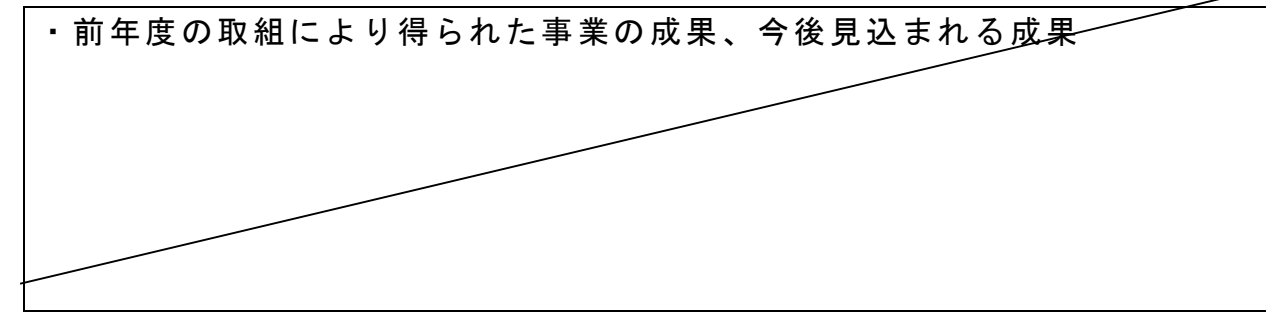
### (前年度の取組)

○国際園芸アカデミー有識者会議（第4回）  
開催日：令和2年7月22日（水）  
開催場所：県庁  
委員：12名  
第5回有識者会議（12月開催予定）、第6回有識者会議（3月開催予定）  
○国際園芸アカデミー有識者会議 花と緑の振興センターWG（第1回）  
開催日：令和2年9月3日（木）  
開催場所：県庁  
委員：11名中9名出席  
○第2回WG  
開催日：令和2年10月15日（木）  
開催場所：県庁  
委員：11名中10名出席  
  
産学官が連携して花き産業界を活性化するため、花き産業の課題に対して

機動的に対応できる機関である「花と緑の振興センター（仮称）」を県に設置することが妥当。

(前年度の成果)

- ・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果



2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）

○：必要性が高い、△：必要性が低い

(評価)

○

新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止や移動自粛等により、花きの消費構造に変化が表れている状況において、花き産業に関する様々な課題に機動的に対応するため、「花と緑の振興センター（仮称）」を県に設置し、花きの需要拡大や担い手育成などに積極的に取り組む必要がある。

- ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）

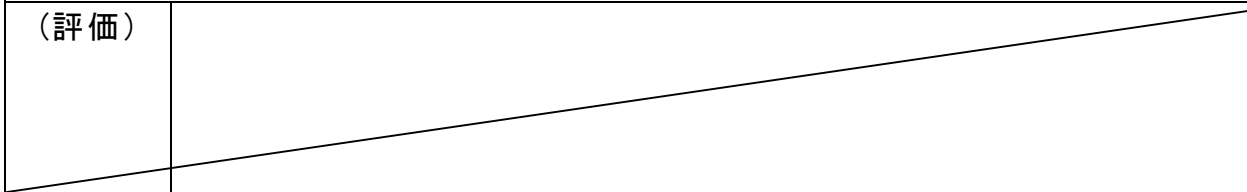
○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

- ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）

○：効率化は図られている、△：向上の余地がある

(評価)



(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

新型コロナウイルス感染症の影響により、花きの消費構造の変化が予想される。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

産学官連携による商品開発や担い手の育成などの活動を継続し、県花き産業の活性化に資する。

他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	【〇〇課】